SOPHIA U
FOR OTHERS, WITH OTHERS

上智大学通信

第482号　2025年(令和7年) 3月24日発行

編集・発行
上智学院総務局広報グループ
〒102－8554　東京都千代田区紀尾井町7－1
電話：03－3238－3179　FAX：03－3238－3539
www.sophia.ac.jp
[Facebook] www.facebook.com/SophiaUniversity
[X]@SophiaUniv_JP

INDEX
2 SATREPS始動／第2回模擬AUローンチ・イベント
3 留学プログラム実施報告／IAEA事務局長来校
4 5 卒業するみなさんへ
6 2024就職状況・2025就職活動
7 金・ルビー・銀・銅祝式典
8 上智大学通信フルリニューアルのお知らせ

卒業おめでとう　未来を創る力を信じて



上智大学長
曄道　佳明



皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。また、ご父母、ご関係の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。高校、大学でのコロナ禍の困難を乗り越え、学位に到達した皆さんに対して、上智大学を代表して、心からの敬意を表しつつ祝辞を述べさせていただきます。

オーストラリアの心理学者たちの著作に「未来を発明したサル」という書籍があります。この書では、現在の人類が、多くの類人猿の中で競争優位に立った大きな要因として、未来を予測する能力の獲得を挙げています。私たち人類の競争優位性については諸説ありますが、この理由づけにもなるほどと思わせるものがあります。確かに、食物を計画的に手に入れる、蓄える、敵対者の来襲に備えるなど、リスク回避の面からもこの能力は競争優位に立つ上での決定的な力となったことでしょう。反対に、この優位性によって人類がこの社会を築き上げてきたからこそ、私たちは、現在直面している見通しの効かない社会、予測不能な社会に対して大きな不安を覚えているのだと思います。

未来を予測する、展望することは、社会の行く末を占うことのみならず、自分自身の人生設計においても、その重要性が認識されることでしょう。しかしここでは一旦、過去に目を向けることについて考えたいと思います。今日この学位授与式において、私は皆さんに「社会の今は必然か」と問いかけたいと思います。現在の社会を俯瞰するとき、もちろん人類ならではの社会の発展、例えば政治・経済の仕組み、社会制度の整備、技術の進展など肯定的に評価できるものがある一方で、環境悪化、貧困、格差、難民、不平等の存在など緊急を要する解決すべき課題も山積しています。この「今」に至った根源はどこにあったのでしょう？あるいは単なる偶然の重なりが今を生んだのでしょうか？

バタフライエフェクトという言葉があります。カオス現象を説明する際に例えられたものですが、ブラジルの一匹の蝶の羽ばたきが、アメリカテキサス州での竜巻を引き起こすか、という問いかけで、今では、ほんの小さな出来事が後にとてつもなく大きな事象を生み出すことの象徴として使われています。社会の今を考えるとき、この状態、事態を招いた根源を具体的に特定することはできません。例えば現在の地球環境悪化の問題は、一つの原因を追求し、特定し取り除くことで解決ができるわけではないのです。では、今は必然ではなく偶然なのでしょうか？私たちは不可抗力や偶然の組み合わせが今を生んだのだと言い逃れることができるのでしょうか？

皆さんの人生にもぜひこの問いかけを当てはめてみていただきたいと思います。皆さんの今は必然か？あるいは10年後の自分の姿は、今まで、そしてこれからの皆さんの歩みによって必然として生じるのか？これは人生に対する大きな問いかけであると思います。今の自分を考えれば、その個性、信念、志を形作った要因は何か一つではないはずです。学校での学びももちろんですが、日々の家族との会話、友人との談笑、社会との対話などの一つ一つが、自分自身の内部でバタフライエフェクトを引き起こし、今の皆さんを形作っているのではないかと思います。

皆さんの大学での学びの成果に対する実感はどのようなものですか？2年間、4年間というスパンで見ても、皆さんが実感したその経験は、10年、30年、50年後の自分に大いなる影響を与える可能性があります。ぜひ皆さんには肯定的な意味でのバタフライエフェクトを引き出す自覚と感性を持っていただきたいと思います。過去の経験が、今の挑戦が、これからの何かが、直ちにではないかもしれませんが、将来の自分に大きな影響を及ぼすであろうという期待を込めて人生を設計していただきたいと思います。そのときどきの自分は必然なのか、これは断定的な解のない問いかけではありますが、私たちは常に問い続ける必要があると思います。

学位授与式では、カトリック・イエズス会センター長から、ヨハネによる福音書の一節が紹介されました。平和を愛する人の継続的な学びについて説かれたものです。真の平和の探求者として実存的な学びが要請されています。残念ながら私たちの日常の中には、平和を損なう様々な事象のニュースが溢れています。皆さんが皆さん自身の役割について考え、広い意味での学びを継続し、平和の探求者であり続けてください。平和の探求という大きな課題こそ、バタフライエフェクトのように世界中の一人一人の日々、日常の意思表示や行いがもたらす必然が期待されるものだと思います。

日々の学び、日常にある小さな挑戦、思ってもみなかった経験、そしてときに不測の事態への向き合い、これらを経る私たちの歩みは、いずれ自分自身の人生、あるいは社会を創造的に変容させる何かを引き起こし、導いているかもしれません。少なくとも、皆さんの大学での学び、研究は、その導きを生み出すに充分に足る経験と言えます。For Others, With Othersを教育精神とする上智大学の卒業生、上智大学大学院の修了生として、その導きにはぜひ弱き立場への眼差しが、眼光鋭く向けられているものと切に願います。

ご卒業、誠におめでとうございます。

聖書のみことば【ヨハネによる福音14章23～27節】

イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。 わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。

わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。 わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」

祝福の祈り

愛の神よ、無限の愛の驚くべき交わりよ、わたしたちに教えてください。宇宙の美しさの中で、すべてのものがあなたについて語る場で、あなたを観想することを。あなたがお造りになったすべての存在にふさわしい、賛美と感謝を呼び覚ましてください。存在するすべてのものと深く結ばれていると感じる恵みをお与えください。

愛の神よ、地球上のすべての被造物へのあなたの愛の道具として、この世界でのわたしたちの役割をお示しください。あなたに忘れ去られるものは何一つないからです。無関心の罪に陥らせず、共通善を愛し、弱い人々を支え、わたしたちの住むこの世界を大切にできるよう、権力や財力をもつ人々を照らしてください。

貧しい人々と地球とが叫んでいます。おお、主よ、すべてのいのちを守るため、よりよい未来をひらくため、あなたの力と光でわたしたちをとらえてください。正義と平和と愛と美が支配する、あなたのみ国の到来のために。あなたはたたえられますように。アーメン。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。これからも益々、この世の様々な場所で、神からの知恵を活かし、真の平和のための継続的な研究を実行する者になられますように。

カトリック・イエズス会センター　副センター長
アントニウス・フィルマンシャー